



「有明海のなぜ？」シンポジウム

第2回 なぜ、タイラギがとれたのか ~定着できる生息環境がそろった理由は~

**入場
無料**

日時 平成22年5月29日(土)
受付13:00 開演13:30~15:30

会場 佐賀大学 教養教育大講義室
(佐賀市本庄1番地)

概要 今年のタイラギは13年ぶりの豊漁となりました。これは、久しぶりに有明海に大量に定着したこと、生育が不安定な夏季を乗り切って成貝にまで至ったおかげのようです。そこで、なぜタイラギがとれたのか、タイラギの生態と底質・流れなどの生育環境との関係など、生物と環境の側面から検討を行います。



**今後の
予定**

	テーマ	内容	開催日
第3回	なぜ、貧酸素水塊が発生するのか ~流れの変化が影響しているのか~	貧酸素水塊が発生すると、海底に生息するアサリやサルボウ等の貝類が大量に死んでしまいます。そこで、貧酸素水塊がなぜ、いつ、どのような条件で発生するのかというメカニズム、鹿島沖と諫早湾での発生に関連はあるのかなど、夏季における有明海の海域環境に関わる様々な現象と関連があり、物質循環の重要な指標とされている貧酸素水塊について議論を深めます。	7月
第4回	底質はどう変わってきたのか ~海底堆積物からわかる 長期的な変化は~	近年、有明海の底質が悪くなってきたと言われますが、長期的にみた場合、底質はどのように変化してきたのでしょうか。海底堆積物の柱状試料(深さ1m以上)から、各堆積層の性状やその中に含まれる貝殻の種類の変化などを調べることで、底質が長期的にどのように変化してきたのか、解説します。	9月
第5回	有明海的环境変化は、どこまで 科学で解明されたのか ~有明海再生機構の 中間報告に向けて~	シリーズ4回の議論を踏まえ、これまで進められてきた調査・研究について、明らかになったこと、課題として残されていることなどを、関係者が共通の認識を持ち、共有化して、次なる再生に向けての調査研究のあり方を議論します。	11月

有明海講座を開催しました。

平成22年1月20日(水)荒牧軍治特任教授(佐賀大学有明海総合研究プロジェクト)をお招きし、有明海講座「干拓から有明海沿岸道路まで～有明粘土とのつきあい方～」をアバンセ(佐賀市)にて開催しました。当日は約70名の参加がありました。

今回は有明海の海域ではなく、陸域をテーマとした講演でした。

有明海沿岸の地盤の多くを占める有明粘土において工事をする際の苦勞や研究の活かされ方、今後の研究で目標としていることなどを講演いただきました。

江戸時代から有明海沿岸では、ウロコ状干拓と呼ばれる手法で干拓が行われていたそうです。この工法は、それほど環境に影響を与えることはなかったといいます。

そして、軟弱地盤である佐賀県に有明海沿岸道路を作るときの工法、道路橋設計示方書のあり方についてもお話がありました。

有明粘土の鋭敏比が100だということを知ったバンコクの先生が信じられない!と言ったというのを聞いて有明海沿岸はとても特異な地盤の性質をもっているのだと実感しました。



会場の様子

有明海講演会「有明海の魚類と貝類の関係」を開催しました。

平成22年2月11日(水・祝)アバンセ(佐賀市)にて「有明海講演会～有明海の魚類と貝類の関係～」を開催しました。

当日は大学、企業の研究者、学生、漁業関係者など約90名もの方々にご参加いただきました。メディアにも多く取り上げていただき有明海への関心の高さをうかがうことができました。

はじめに、佐賀県有明水産振興センター川原逸朗副所長から佐賀県海域でのタイラギ生産とアゲマキ資源の回復についての現状と取り組みをご講演いただきました。タイラギは今年度久しぶりに順調な操業が行われていますが、資源量は最盛期に比べるとまだまだ低水準で、沖合いで発生する大量瀕死の原因の特定はできていないこともあり、新たな視点に立った増養殖技術の開発と底質改善技術の開発が必要ということでした。

タイラギ資源の減少要因の一つには底質の細粒化が挙げられており、タイラギの成長には海底の状態が大きく影響しているとのことで、実験的に底質にモガイ殻の散布・耕耘を行った結果タイラギ稚貝の着底促進効果が確認されたとの報告がありました。

次に長崎大学水産学部山口敦子准教授から有明海の魚類の生態について講演いただきました。近年有明海で増加が指摘されているナルトビエイについての詳しい研究結果報告で漁獲調査や衛星を使った追跡調査でナルトビエイは低水温を避けるために冬季には外海へ移動すると考えているそうです。有明海は外海からも産卵のために来遊する魚類も少なくない重要な海域ということで、さまざまな魚類を写真とともに紹介いただきました。

演 題	発表者
有明海における魚類の生態について ～ナルトビエイを中心に～	長崎大学 水産学部 准教授 山口 敦子
有明海の貝類資源の回復に向けた取り組みの現状 ～タイラギやアゲマキなど～	佐賀県有明水産振興センター 副所長 川原 逸朗



会場の様子

「筑後川と有明海」流域NPO活動報告会に参加しました

3月14日(日)に筑後川発見館くるめウス(福岡県久留米市)にて開催された「筑後川と有明海」流域NPO活動報告会にて、当機構の活動発表を行いました。

筑後川まるごと博物館学芸員の方から、「筑後川の流れをたどって!～筑後川源流から河口まで～」というお話があり、その後、筑後川の河川管理の状況や参加NPO法人6団体の活動報告が行われました。

海域というのは、河口、河川へと繋がっているのだと改めて実感しました。



会場の様子

【第一回】「有明海のなぜ?」シンポジウム

なぜノリの色落ちが起きたのか ～赤潮が12月に発生した理由は～

平成22年3月31日(水)にアバンセホール(佐賀県佐賀市)にて第一回『「有明海のなぜ?」なぜノリの色落ちが起きたのか～赤潮が12月に発生した理由は～』シンポジウムを開催しました。当日は約120名の参加があり、マスコミにも大きく取り上げられました。

これまで再生に向けての方向性の議論や大学や研究機関で実施される調査研究の把握、必要な調整を行ってきました。そして、引き続き、国や県の関係機関と連携を図りながら、再生に向けた調査研究等の新たなステップを構築し、その効果的な実施に主導的役割を果たしていくこととしています。そこで、シリーズでのシンポジウムを計画しました。

第一回目は、「なぜ、ノリの色落ちが起きたのか」をテーマに、今ノリ漁期の珪藻赤潮の増殖とノリの色落ちとの関係について、有明水産振興センターから話題提供をいただき、各コメンテーターから専門の立場から検討していただきました。

佐賀県有明水産振興センター横尾一成係長から、基調報告として、平成21年12月下旬、珪藻アストリオネラの赤潮が発生し、栄養塩が低下してノリの色落ちが起こり、冷凍網の張り込みが延期されるなど、今年のノリ養殖に大きな影響を及ぼしましたが、なぜ赤潮がこの早い時期に発生したのか、赤潮・色落ちの発生状況をもとに、栄養塩、透明度や生物、さらには全天日射量などとの関係などを検討するとともに、長期的な視点や、詳しい最新の調査結果を分かりやすくお伝えいただきました。

その後、総合討論を行い、さらに報告を佐賀県有明水産振興センター川村副所長、有明海再生機構江頭課長よりいただきました。

香川大学本城教授より、貝が生息する環境がノリにもいい環境であるといった言葉が印象的でした。



会場の様子

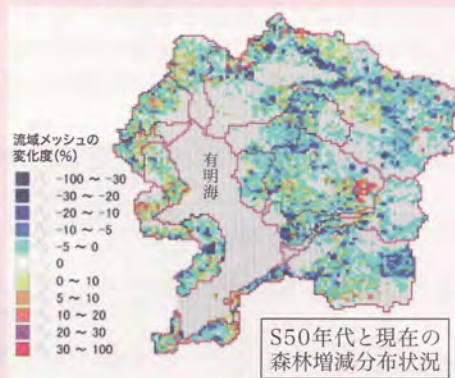
支援会員の活動紹介 (有明海の再生を願い当機構の活動を支援してくださっている会員の皆様) 第11号 株式会社 建設技術研究所 様

～有明海の健全な水環境の再生を目指して～

近年、有明海においてノリ養殖やアサリ等の二枚貝類へ悪影響を与える赤潮や貧酸素水塊が多く発生しています。この要因の一つと考えられる陸域からの負荷を把握するため、有明海へ流入する流域を対象に総合的な水物質循環モデルを構築し、陸域における水物質循環の変遷を明らかにしました。これにより水系一貫した有明海再生に必要な水質改善施策の提案が可能です。

当社が自主開発したこのモデルは治水分野の流域対策、利水分野の濁水リスト評価及び水マネジメント、環境分野における水質保全対策の評価に有効です。

今後、地球温暖化の進展にともなう将来の気候変化及び人間活動による影響を踏まえた河川管理・流域管理を効率的に実施することが必要であり、このモデルを用いることで閉鎖性水域における環境問題に限らず、各種の流域対策の方法の選定や効果を評価できます。具体的には、洪水予測、低水管理、水質改善、流域の栄養塩循環、遊水地・ダムなどの効果検討など多様な分野での活用が期待できます。



<お問い合わせ> 株式会社 建設技術研究所 福岡市中央区大名2-4-12 TEL:092-714-2211
ホームページ: <http://www.ctie.co.jp/>

「有明海再生に関する研究等助成」の募集について

今年度も「有明海再生に関する研究等助成」の募集を会員の皆様を対象に行います。

これは、有明海再生に向けた環境改善技術の開発等に関する研究等を推進するため、調査・試験・研究に必要な経費、または、国等へ研究費助成を申請するための準備調査・試験・研究に必要な経費を助成するものです。

昨年度は4件の応募があり、そのうち1件を採択しました。

詳細につきましては、当機構からのご案内、または、ホームページの募集要項をご参照ください。(6月中旬掲載予定)

支援会員募集のご案内 ※詳しくは事務局までお問い合わせください。

有明海再生機構では、当機構の趣旨に御賛同いただき、活動を支援して下さる支援会員(企業・団体・個人)を募集しております。

年会費: **企業・団体...** 一口 **5万円** **個人...** 一口 **1万円**

編集後記

潮干狩りのシーズンとなりました。有明海では「干満の差」を利用した潮干狩りが楽しめます。

有明海に触れる絶好の機会ですので、ぜひ、出かけてみてください。4月～6月の間たくさんの観光船が潮干狩り客を乗せて有明海へ出航します。



発行

NPO法人 有明海再生機構事務局

〒840-0041 佐賀県佐賀市内1-5-14 佐賀県自治会館4階

TEL (FAX兼用) : 0952-26-7050

E-mail : npo-ariake@ceres.ocn.ne.jp

ホームページ : <http://www.npo-ariake.jp/>

※H20.8月、事務所移転で住所が変わりました。電話(FAX)はそのままです。